令和４年１月１０日

保護者の皆様

昭島市立富士見丘小学校
校長　稲垣　達也

陽気を孕み、春の胎動を助く

輝かしき新春を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

本日、小学校長会を代表して昭島市成人式式典に参列させていただきました。コロナ禍において感染症対策を一層強化しつつ、新成人が直接顔を合わせ、語り合う姿から、少し大人になった卒業生らが、少しでも「未来について考える」貴重な機会になったものと思います。
彼ら自身が式典の在り方を工夫し実現する中で、これからの日本をどのように創り発展させていくのか考える「成人の日」の本来の趣旨に合っていたと感じました。

さて、今年の干支“壬寅（みずのえとら）”は、「陽気を孕み、春の胎動を助く」年と言われています。依然として新型コロナウイルス感染症の脅威を拭うことができない状況ですが、易経の「大賢虎変」という教えにあるように、職員一同、既成概念の罠に惑わされず、変革を怖れず柔軟な姿勢を発揮し、常に改善・改革に力を尽くしていく所存です。
つらく厳しい冬を耐え、内に蓄えた陽気により、春の芽吹きが生命力にあふれ、次代の礎となる一年でありたいと念じております。

「禍福は糾える縄の如し」

コロナ禍も然りですが、生きていると、様々な局面で苦しい事に突き当たります。生きているからこそ、当たり前です。
２年前、全国の学校が余儀なく臨時休校となりました。３ヶ月もの異常事態です。この時の苦しみや不安は、反面、学校の存在意義、登校できる喜びや感謝の念を確かなものとして感じる契機となりました。正反対のものを経験することによって、本当の価値に気付くこともあるのです。生･老･病･死、人が生きる上で〈苦〉は避けては通れません。同じ様に、生きているからこそ嬉しい事や楽しい事にも巡り合えます。
おそらく、この人生で起こるあらゆることは奇跡的なことです。生きていること自体、奇跡的なことです。だからこそ、人生のすべての出来事はプラスで、マイナスではないのです。全部、生きているからこそ味わえるのです。
すべては、生きているからこそ、です。喜･怒･哀･楽、全部がＯＫです。
今年も 一緒に生きていきましょう！！

「日々、薄紙を重ねるが如し」

正月の箱根駅伝で青山学院大学が歴史的な圧勝を成し遂げた要因として、原晋監督の“青学メソッド”が注目されています。にわか専門家がその効果をしたり顔で解説していますが、実際は誰にも真似することはできない何かがあるはずです。だからこその勝利です。
物事に即効性のある改善策はありません。毎日毎日、薄紙を重ねるが如く、地道な努力を積み重ねていくしかありません。
学校の教育活動も同じです。毎時間の授業、様々な特別活動、毎日の掃除や靴の踵を揃えること、１回、２回やったくらいではまったく何も変わりません。全ては、ただひたすら、

薄紙を根気よく重ねていくのが教育です。
　あまりに薄すぎるので、その貴重な厚み（価値）に気付くことがないかも知れません。その意味を失い掛けることもあるかも知れません。
　しかし、たゆまず積み続けることです。
　それしか方法はないのですから。

「個別最適と多様性の追求」

　今の素晴らしい富士見っ子の姿が、その証です。薄紙の努力をせず、現実から逃避することほど愚かなことはありません。これからも、何年もかけて縁を積み重ねていくのです。
　本校では、Society 5.0 時代を主体的に生き抜く「感性を豊かに働かせながら、豊かで活力ある未来を創造する子」の育成のために、『誰一人取り残すことのない“個別最適化された学び”』、『協働して新たな価値観や行動を生み出す“探求的な学び”』の実現を目指しています。
　個別最適や多様性の追求は、教育における＜公正＞を置き去りにすることではありません。一人一人を大事にする、特にしんどい立場・状況にある個人を、皆が互いに目を配り合い、全員が安心できる居場所を実現することが肝心です。
　互いの価値観を認め、共感力を持ち、助け合い、教え合い、学び合う中でしか、社会全体を底上げすることはできません。私たちは様々な人がいる空間で揉まれ、みんなで一緒に学んでこそ、人間なのです。
　多様性というのはそういうことだろうと思います。

「すべての命を守る」

　兎に角、今も変化し続ける新型コロナウイルス感染症から「すべての命を守る」ことが第一義です。このことをしっかり心に留め、健康に留意し、物欲や快楽に惑わされることなく、心豊かな時を過ごされますよう願っております
　この１年も、皆様と共に希望をもって生きていくことをお誓い申し上げます。